

ひとつの会社に長くいることが損という時代になった

- ▶ 会社に愛着を持って長く働いてくれる人が割を食って、どんどん転職していく人の給料が上がっていくという。
- ▶ 今はもう人の奪い合いだから、新しく来た人にはすごく優しいが、今いる人には何もあげたりしない。そこはそっとしておきたい。バレないうちは。これは、携帯電話を乗り換えたときに、様々な特典が付いてくることに似ている。
- ▶ 高市政権では、最低賃金1500円という言葉は消えたが、物価上昇を上回る賃上げを目指すことに変わりはない。最低賃金1500円になれば、ますます正社員になる理由がなくなってくる。正規雇用を求める人は逆に減るような気がする。
- ▶ 最低賃金1500円で普通に働けば、月24万円ぐらい稼げる。それが、1600円になると、週5日出れば24～25万円もらえる。夫婦で働けば月50万円になる。
- ▶ 管理職になりたくない理由としても多い。共働きが前提なので、管理職になると子育てや家事が回らない。2倍くらいの給料にしないと割に合わない。
- ▶ 管理職は不人気で、正社員がいいという人でも管理職にはなりたがらない。実際に増えており、管理職と転勤はもうご法度である。
- ▶ 非正規雇用は、現状維持が続くとみられる。つまり正社員は増えない。それが悪いかというと、個人の自由で決めているので悪いとはいえない。
- ▶ 責任を負って正社員にはなりたくない。逆に長くやっている人が損をする仕組みなので。一つの会社に長くいることが損だという時代になった。
- ▶ 特に中高年の義理堅いパートの人は、転職するとびっくりするぐらい給料が上がるかもしれない。ずっと我慢していた人は驚くぐらい上がる可能性がある。

貿易戦争、女性初の総理誕生、AIの社会実装化、米国のベネズエラ大統領拘束・移送、帝国主義化等々、いずれも経営・生活に確実に跳ね返ってくる現実。

変化しすぎの波の動き（ファクト）を知らないと、波に乗りようがない。しかし、現実の変化が激しすぎて、「マインドセットだけでは生き残れない」、つまり、経営・ビジネスの学びだけでは、まったく足りない時代に突入した。